



「猫ってどんな動物？」



猫の体がどのような役割でどのような働きをするのか知っていますか？
今回は猫の体について簡単に紹介していきます。

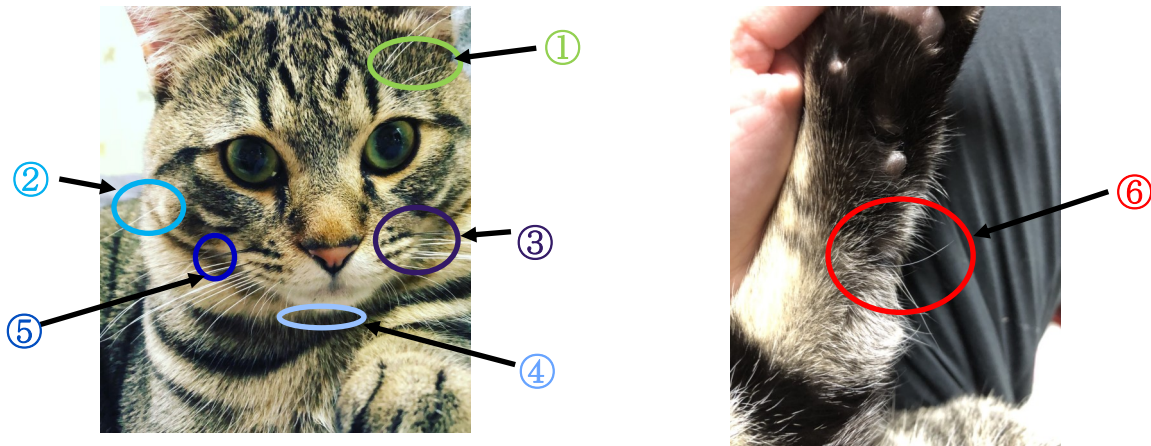
<猫のカラダ>

犬と猫を比べたときに大きな違いとして、小さな体からは想像できないほどの跳躍力や走力などの身体能力が挙げられます。

また、猫の特徴を捉えた絵を描こうとすると多くの人が太く長いひげ・特徴的な瞳孔を持つ目を描かれると思います。

まず猫の感覚器の一つである猫のひげは、顔周りだけで5種類程あり、風や振動から対象の動きを感じ取れるほど敏感なセンサーの役割を持っています。外部からの危険をいち早く察知したり、自分が通れる道幅を測ったりするのに使われます。

<ヒゲの種類>



①上毛：目の周りの触毛として活躍。外部からの危険を察知。

②頬骨毛：頬の辺りに2本ほど生えている。
(生えていない個体も・・・)

③上唇毛：左右で24本ほど。猫ひげの代表格。
道幅を測るなど。

④頭下毛：顎下の危険を察知。

⑤口角毛：上唇毛より短く口の外側に生えている。

⑥手根触毛：足元の障害物を感知・振動等も感知。

<猫の感覚器>

野生で狩りをしていた頃の名残として、獲物を捕らえることに適した体の構造・感覚を持っています。

視覚) 人の約1/6程度の光でもモノが見えるタペタムという組織を持っています。その為、猫は夜行性に間違われますが、実際は完全に暗い中では見えていません。なので活動時間は明け方・夕方がほとんどです。「電気を消して寝ようとする」と猫が運動会をする」や「夏の早い時間に暴れまわる」と言われるのはそのせいかもしれませんね。また視野も90度～120度と広いです。しかしよく見える範囲はせいぜい自分から2m～6mの範囲だけで、近くや遠くのものにはぼやけて見えています。

嗅覚) 猫は犬には劣りますが、人の倍ほどの嗅覚を持ちます。他の猫の尿臭からその猫の情報を嗅ぎ分けることもできます。



聴覚) 聞こえる音域が人の2倍以上で5万Hzまでと広いです。ちなみにヒトは1.5万～2万Hzまでといわれています。また、耳が自在に動かすことで獲物や対象物の位置を正確に聞き分けられます。

味覚) 猫は塩味や辛味・苦味は感じますが、甘味を感じることはできません。また警戒心が強い為、子猫のときに色々な味や食感のフードを与えておかないと成猫になってから与えたことのない食べ物は食べなくなる事があります。



<猫の骨格>

猫はその身体能力に見合った骨格を持っていて、犬には無い鎖骨を持っています。その為上下左右に前脚を動かすことができます。鎖骨は未発達で肩関節と独立していることにより、高いところから降りたときの衝撃吸収に役立つ関節になっています。

他にも、背骨同士の間が非常に柔軟な構造となっており、グルーミングで細かいところまで顔が届くためキレイ好きの猫にとって便利な体になっています。

<最後に>



猫は特有の社会性をもち、猫特有の生活を送っています。猫の骨格や習性を理解してあげることで快適に暮らせる環境を作ることができ、猫と仲良く健康に寄り添っていきます。

当院は、「キャットフレンドリークリニック」と言って猫の診療方法・入院環境に配慮して対応しており、猫のストレスを軽減していくよう努めております。